

取り残された風景 現地 福島 取材レポ

取材協力者…元JR保線区 武藤 康広



昨年末、福島現地取材で相馬市を訪れました。Mさんの運転で水戸を早朝出発、常磐自動車道を北上、福島第一原発が近づくにつれ放射線量も上昇、東日本大震災と福島第一原発過酷事故から14年が経過しているのに、駅の周辺だけが見違えるように再開発され、さらに大手ゼネコンで働く労働者向けと思われるホテルやアパートが林立していました。

待合せ場所のファーストフード店で初対面の「国労退職者の会」の武藤康広さんとお会いしました。一瞬こわもてで野武士を思わせるような風貌に戸惑いましたが、野武士の風貌については後でその意味が分かりました。武藤さんは現在67歳で、現職時代はJRの保線で働いていました。震災当時はいわき市の社宅に居住。自分はJRに勤めていたのではなく、国鉄で働いていたという強いこだわりの持ち主でもありました（編集部）。

編集部…早速本題に入らせていただきますが、2011年3月11日の大震災時はどこで震災にあわれ、家族の皆さんはどう避難されたのですか？

武藤…震災当日は保全技術センターでの仕事で、すぐ家族の安否確認をし、帰宅。双葉に着くまでどれくらいかかったかな、3時間から4時間はかかりました。迂回、迂回で道路は全然ダメ。あの時の事は酷くて思い出したくありません。酷くてひどくて。

うちの家族は奥さんと子ども3人だけど、たまたま長女は膝の手術で東京にいました。東京も酷い状況で退院できずにそのままおりました。自宅の中はメチャクチャで息子は避難先の小学校で見つかりホッとしました。その息子は東電の下請け会社で働いていて、「原発が爆発するぞ」という話で全町避難しました。福島第一原発の東電社員や業者も一目散に避難したようです。

編集部…爆発前に避難されたということですね？

武藤…(爆発の) 予測があったので全町避難を前日にしました。

こちらでは前々から「何かあったら山に逃げろ」と言われていたので川俣に逃げていきました。

爆発当時は、川俣には2、3日おりました。別の息子を探すも、あつち探し、こつち探し、電話は全く通じないしダメで、2日後にその息子とも会え、ホツとしました。その後、会津若松市に逃げました。会津若松の体育館に5月の連休明けまでいたかな。

編集部…そのあとはどうされました？

武藤…その後、いわき市の社宅に戻り60歳で国鉄辞めて退職したんだけど、2年間社宅に居たかな。ある日、突然電話が掛かってきて「いつまで社宅に居るんだ」と、非情にも退所勧告を受け、今の鹿島(南相馬市)の県営住宅を借り住んでいます。避難したのは人間だけでなかった。ペットの犬猫2匹とずっと生活して来たから家族なんです。鹿島選んだのはペット入居可だったから。

編集部…元々住んでいた実家はどうなりましたか？

武藤…誰も住んでいません。本当は一昨年(2023

年)解体申請したんですよ。精神的賠償の裁判やっただすよ。その他の一切は東電が受け付けしなかったですね。震災前の東電とまったく同じです。なに一つも変わっていません。そう大事なことを忘れていました。ふるさと喪失訴訟も起こしました。

編集部…一番大事な地域のコミュニティが奪われてしまいましたものね？

武藤…微々たるものですが第4次の川俣裁判ではそれが全面的に裁判所に認められました。

編集部…14年が経過しましたが、今も一番、訴えたいこと腹立つことはなんですか？

武藤…それは簡単です。地震と福島第一原発事故が無ければ、自分はたぶんエルダー(JRの再就職会社)もやって、地元で何か見つけて、自分のやりたいこともあったんで、そこまですべて家族5人で穏やかに生活したかった。武藤家が集まれる場所は双葉しかなかった。それが一番重い。どうしてくれんの俺の生活設計全部狂ったし、俺の家族の生活設計も全部狂った。それはお金とかそういうもので決められるもんじゃないし、俺の希望は当時の東電会長の勝俣に俺んとこ来て謝れ！ そう

◆特集 今こそ、脱原発・反原発運動の再強化を



2023（令和5）年度の

相馬野馬追に出場した筆者・武藤さん

すれば賠償も何もいらぬから。それが俺の切実な願いだから裁判所でも訴えてきました。お前らが安全安心と行ってやってきたんだから謝れ。実際謝りに来たのは、県知事とか、首長とかの「偉い人」には謝ったけど、住民には誰一人として幹部は謝罪しに來なかつたです。下っ端の課長クラスが「謝罪」に來ただけです。

編集部…やりたかつたことと言われていましたが？

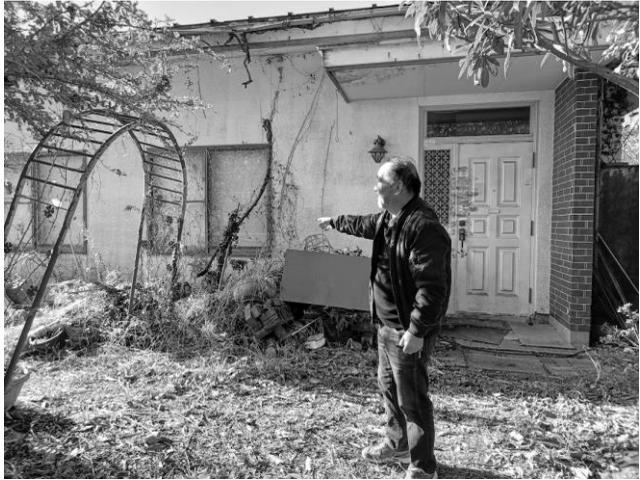
武藤…俺の趣味は鎧・兜を製作することです。相馬野馬追に出るんですよ。1年に一度相馬野馬追（とうまのまおひ）の時は家族が集まつて。親父のために、親父も自負していました。（だから野武士の風貌があつたのだ）

編集部…賠償金の事で世間ではいろいろと言われてきましたが？

武藤…今でも言われますよ。今でも10万円貰つてんだべ。あれだけガンガン賠償金貰えるって言ってる皆さんじゃあ一瞬にして今まで昨日いたことが朝起きたら生活できなくなるって考えたらどうなの。「金では買えない、この気持ちになつてみなさい」と言いたい。「金貰つて良くなつて」と、言う人は自分でなつてみると思ふんですよ。

編集部…最後に一言。今、国や原子力規制委員会が原発回帰に舵を切り、60年越えの原発再稼働や小型の原発開発とか言われている現状についてどう思いますか？

武藤…単純に一言、バカじゃないの。俺らと同じこと経験して、福島第一原発が爆発した時の事を考えて欲しい。大地震もありましたが、こちらは2日間も飯食べられなかつたんですからね。ずうつと電気が足りないって国やマスコミがパンパン言つたつて、実際は賄えているでしょう。最後に一つだけ思うのは、もっと、原発のことを勉強すればよかつたです。



周辺が鬱そうとした中にポツンと立つ
荒れ果てた実家を案内する武藤康広さん

編集部：お疲れのところ長時間にわたりインタビューに
応じていただき誠にありがとうございます。私達も改
めて原発再稼働反対・廃炉の声をこれまで以上にあげて
いきたいと思えます。

この後、双葉町のご実家を案内してもらいました。



家の中は、留守中に人間が
荒らし、持ち去った痕跡が

車で約30分の所にあるご実家は、周辺が鬱そうとし
た中にポツンと立っておりまして。家の中を土足で案内
してもらいましたが、時が2011年3月11日で止ま
ってしまいました。足の踏み場もないほど、家具や生活用品
が散乱し、「イノシシに荒らされたのですか」と聞いた
ら、「ほとんど留守をよいことに、人間が荒らし持ち去
った」と言う。地震は防ぐことは出来ないが、原発さえ
なければ家も再建できたはず。事故の負担だけ現地福島
に押し付けて煌びやかな明かりを当然の様に享受する大
都会。地元住民の犠牲の上に立つ原発などいらはないとの
思いを強く持つて帰路を急ぐ取材でした。

(むとう やすひろ)